

エゾシカモニタリング調査年次計画(案)

2006/2/4-5シカWG会議資料

			準備期	第1期					第2期	第3期	
区分	調査項目	目的・内容	H18(2006)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012) ~ H28(2016)	H29(2017) ~ H33(2021)	
個体群動態に関わるモニタリング調査	生息動向調査	主要越冬地におけるライトセンサス、航空カウント等で生息動向を把握する(ヘリ使用可の場合は群れ構成も把握。ヘリ使用不可の場合、群れ構成は越冬群調査の際に把握)。1980年代から同一手法で継続されており、経年比較が可能。密度操作の効果検証の指標としても活用。	冬期航空カウント(知床岬・ルシャ)、春・秋ライトセンサス(幌別・岩尾別・ルサ-相泊)、冬期日中センサス(真鯉:新規)	継続実施 (新規調査地も検討)	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	
	自然死亡状況調査	主要越冬地における自然死亡個体の年齢・性別頭数の把握。密度操作の効果検証の際には、本調査による自然死亡数を加味する必要がある。(死亡個体の年齢については切歯サンプルによる正確な査定も合わせて実施することが望ましい)	知床岬(5月) ルシャ(5月:新規)?	継続実施 (新規調査地も検討)	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	
計画策定・改訂のための調査	シカ季節移動調査	電波発信器等を用いて、各越冬群の季節移動状況を把握する。個体群管理に向けたゾーニングを決めるために必要な情報。	H16年度捕獲個体(知床岬、幌別・岩尾別、真鯉周辺)の継続追跡調査、および結果とりまとめ	季節移動状況調査(知床岬赤岩側、ルサなど)?	季節移動状況調査(知床岬赤岩側、ルサなど)?	追跡調査	追跡調査	結果取りまとめ	必要に応じて実施検討	必要に応じて実施検討	
	越冬群分布調査	ヘリセンサスにより越冬群の分布・規模等の変化の有無を把握する。この調査結果に大きな変化が見られた場合は、対策プランの再検討が必要となる。半島規模の生息数推定も合わせて実施する。					越冬地分布調査		越冬地分布調査(H27)	越冬地分布調査(H32)	
	シカ採食圧広域調査	地域別・標高帯別のシカ採食圧状況(木本・林床)を広域的に把握する。特定樹種の増減、選好樹種の変化、稚樹の更新状況、越冬標高の変化等が把握可能。					調査実施		調査実施(H26?)	調査実施(H31?)	
	高山帯進出状況調査	高山植物等へのシカの影響の有無をモニタリングする。深刻な影響が現れた場合は、越冬先での密度操作強化などの対応を検討する。					調査実施		調査実施(H26?)	調査実施(H31?)	
	年輪・花粉分析調査	過去数百年~数千年前までのシカと植生の長期的な関係を明らかにするもの。本管理計画の基本方針を決定するための重要な判断材料である。	花粉分析については知床岬、ウナキベツ川中流、遠音別岳北西斜面など、3-4地域で追加調査? 年輪は小径木を対象に?	必要に応じて過去のサンプルの詳細分析実施可能							
	希少種分布調査	希少植物群落の分布やその規模、またレフュージアの有無等について広域的に把握するもの。保護対象種の選定や防護柵の設置場所・規模などを判断する上で必要な情報。	H17年調査で希少種が確認された群落を中心に詳細調査(残存個体数把握等)実施?	必要に応じて調査実施検討							
密度操作に作関する準備調査・効果検証	密度操作手法検討調査	大量捕獲作業の具体的手法について、技術面、安全面、コスト面等の詳細な検討を行ったうえで実験に臨む。当面密度操作に着手できない地域についても、主要な越冬地については捕獲手法の具体的検討を進めておく。	密度操作実験対象地について、具体的手法の詳細な検討が必要。またその他の主要越冬地における具体的手法の検討調査。	密度操作実験対象地について、実施手法の試行が必要。	密度操作実験の実施、手法の改善検討。	実験の実施と手法の改良。	実験の実施と手法の改良。	次期実施計画の確定・試行	継続	継続	
	シカ採食圧調査	密度操作を行う越冬地に採食圧調査プロットを設定しシカの密度変化に対する反応をモニターする。既存の調査区がある地域ではそれを活用、また密度操作を行わない(同様の環境の)別地域に対照区を設けて比較する。	密度操作実施前の状況について調査しておくことが必要。対照区も合わせてプロット設定・調査する。	密度操作実施地にて調査	継続調査	継続調査	継続調査	継続調査	密度操作地で継続実施	密度操作地で継続実施	
	越冬地シカ実数調査	越冬地全体、あるいはその一部区域のシカを追い出し、実数をカウントする。捕獲効果の検証のほか、航空カウントとの組み合わせで個体数推定も可能。なお、知床岬地区越冬群については、ほぼ全頭が台地草原上に出てくることから、本調査は実施せず、航空カウント調査結果を流用する。	主要越冬地において、追い出し調査エリアを設定し、実施手法について検討を開始する。	密度操作実施地にて調査	継続調査	継続調査	継続調査	継続調査	密度操作地で継続実施	密度操作地で継続実施	